

# 「革靴製造技能試験の実施について」

全日本革靴工業協同組合連合会

革靴製造技術者の高齢化が進む中、若手技術者への技術の継承、技術の向上が課題となっている。このような現状において、革靴製造技術者の技能を適正に評価し、スキルアップを図ることを目的とした革靴製造技能試験の実施について平成18年から検討をすすめてきた。

そして、全日本革靴工業協同組合連合会として第1回「革靴製造技能試験」を平成19年3月、以下のとおり実施した。

(第1回「革靴製造技能試験」概要)

## 1. 試験スケジュール

- 1月9日～ 募集要項配布
- 1月21日～2月1日 受験申込受付
- 3月22日 学科試験
- 3月29日 実技試験
- 5月12日 合格発表

## 2. 試験会場

- 学科試験 東都靴会館2F
- 実技試験 東京都立城東職業能力開発センター台東分校

## 3. 試験の種類

裁断、製甲、底付、仕上、4つの種類の技能試験（紳士／婦人の選択）

## 4. 試験の等級区分

(受験資格実務の経験年数)

1級（4年以上）

2級（2.5年以上）

## 5. 学科試験出題範囲

(学科試験出題範囲は各等級共通)

### (1) 共通分野

- ①革靴の種類及び製法に関する知識
- ②皮革の素材、鞣し方、仕上げの特徴、用途等に関する知識
- ③革靴の部品、付属品及び副資材に関する知識
- ④紙型及び木型に関する知識
- ⑤用具及び機械に関する知識
- ⑥靴のデザインに関する知識
- ⑦足と靴に関する知識（足と靴の関連性及び足の病気等の知識）
- ⑧安全衛生管理及び生産工学に関する知識
- ⑨皮革、革靴の国内生産統計及び輸出入統計に関する知識
- ⑩その他革靴製造に関する一般知識

### (2) 専門分野

(4つの種類の各工程について)

- ①靴製造に関する知識
- ②工程に関する知識
- ③用具及び機械に関する知識

## 6. 実技試験内容

実技試験は等級ごとに内容が異なり、

試験の種類ごとに「紳士」または「婦人」のいずれかを選択。さらに、底付については「手づくり」または「機械づくり」のいずれかを選択

(1) 1級

①裁断

試験内容 仕様書のとおり、甲革と裏革から革の特性を生かした手断ち裁断をする。

②製甲

試験内容 ミシンの調整をして仕様書のとおり製甲完成品を作る。

③底付

次の（ア）または（イ）のいずれかを選択する。

試験内容 （ア）手づくり 仕様書のとおり手づくりで底付完成品を作る。  
（イ）機械づくり 仕様書のとおり機械を用いて底付完成品を作る（ただし、婦人のハイヒールはサイド部分を手づくりでまとめる）

④仕上

試験内容 仕様書のとおり検品済みの最終完成品を作る。

(2) 2級

①裁断

試験内容 甲革裁断のため傷のマーキングを行い、仕様書のとおり機械裁断をする。

②製甲

試験内容 ミシンの調整をして、仕様書のとおりコバ漉き、折り込み、アタリ付け、裏こしらえを行うと同時

に指定された曲線縫いをする。

③底付

次の（ア）または（イ）のいずれかを選択する。

試験内容 （ア）手づくり 仕様書のとおり手づくりでサイドと踵のまとめ底付作業（本底貼り、圧着）を行う。  
（イ）機械づくり 仕様書のとおり機械を用いてサイドと踵のまとめ底付作業（本底貼り、圧着）を行う。

④仕上

試験内容 仕様書のとおりコテ掛け以外の仕上工程を行う。

7. 受験者及び合格者の状況

①革靴製造技能試験 裁断1級（婦人）  
受験者 3名 合格者 2名

②革靴製造技能試験 製甲1級（婦人）  
受験者 10名 合格者 7名

③革靴製造技能試験 底付1級（紳士）  
受験者 1名 合格者 0名

④革靴製造技能試験 底付1級（婦人）  
受験者 9名 合格者 8名

⑤革靴製造技能試験 底付2級（婦人）  
受験者 2名 合格者 1名

⑥革靴製造技能試験 仕上1級（婦人）  
受験者 4名 合格者 3名

合計 受験者 29名 合格者 21名  
（内1名実技試験欠席）



実技試験（製甲）の様子

受験者29名の内訳として、男性受験者が27名、女性受験者が2名であった。平均年齢は42.0歳で、幅広い年齢層の方々が全国

各地から受験した。

なお、革靴製造技能試験は、毎年1回、今回の試験と同時期に実施する予定である。



実技試験（底付）の様子